

令和5年度 教育研究推進計画

学校教育目標

- 小中一貫 教育目標 : 自ら学び 考え 自立した行動ができる生徒の育成
- 吉舎中学校教育目標 : 志高く学び 吉舎に貢献する生徒の育成

1 研究主題

互いを認め合い、共に生きようとする力を育む道德教育の創造
～考えを伝えあう授業づくりを通して～

2 研究主題設定の理由

昨年度、「道德科」における授業改善に取り組み、アセスメント調査を実施したところ、以下の通りであった。

【令和4年度吉舎中学校生徒 アセスメント調査の結果】（2月実施）

《いいところ》 道德的価値の理解が高く、道德的行為の実践意欲が高い内容項目	
1年生	「礼儀」「向上心、個性の伸長」「勤労」
2年生	「よりよい学校生活、集団生活の充実」「遵法精神、公德心」「節度、節制」
3年生	「遵法精神、公德心」「自主、自律、自由と責任」「友情、信頼」
《課題》 道德的価値の理解が低く、道德的行為の実践意欲が低い内容項目	
1年生	「国際理解、国際貢献」「社会参画、公共の精神」「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」
2年生	「社会参画、公共の精神」「思いやり、感謝」「生命の尊さ」
3年生	「真理の探究、創造」「国際理解、国際貢献」「生命の尊さ」
《理解と行動の不一致》 道德的価値の理解と、道德的行為の実践意欲の差が大きい内容項目 これは、良い行為と知っていながら、行う自信がなかったり、迷いがあったりすることを表しています。	
1年生	「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」「思いやり、感謝」「よりよい学校生活、集団生活の充実」
2年生	「希望と勇気、克己と強い意志」「向上心、個性の伸長」「よりよい学校生活、集団生活の充実」
3年生	「自然愛護」「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」「思いやり、感謝」
《4つの視点から》	
1年生	全体として「A 主として自分自身に関すること」の意識が高く、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の意識がやや低い。
2年生	全体として「A 主として自分自身に関すること」の意識が高く、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の意識がやや低い。
3年生	全体として「B 主として人との関わりに関すること」の意識が高く、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の意識がやや低い。

アセスメント調査を4月と2月に行い分析を行った。4つの視点において、1年生ではA, B, C, Dの4つの視点で、2年生ではB, C, Dの3つの視点で、3年生ではA, B, C, Dの4つの視点で若干の低下が見られた。1・2年生においては「社会参画、公共の精神」に、1・3年生においては「国際理解、国際貢献」に、2・3年生においては「生命の尊さ」に課題があり、4つの視点の中でも「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の意識がやや低かった。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学校行事等の体験活動や地域との触れ合いなどの活動が縮小され、地域や社会との繋がりが感じにくくなってきたことも原因の一つであると考えられる。行事等の体験活動や他教科との有機的な関連を生かした道德学習プログラム「吉き舎りプログラム」の実践を進めながら、道德科の授業で育てた道德的判断力、心情、実践意欲と態度を道德的实践につなげていきたい。さらに、学校での取組だけでなく、家庭での生活とつなげていくために保護者と連携した取組の工夫を行うことが必要である。

4月と1月に実施した意識調査では次のような結果となった。

【令和4年度吉舎中学校生徒 意識調査の結果】 (%)

質問項目	肯定率 4月	肯定率 1月
道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている	71.9	77.1
道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている	78.9	82.5
道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活にいかしている	71.9	63.2
今住んでいる地域が好きだ	94.7	94.7
今住んでいる地域のために、地域の行事などに参加している	93.0	89.5

これまでの成果として、道徳の授業を通して自分のことを振り返り、話し合いなどで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒が増加した。また地域が好きで、地域の行事などに参加している生徒も多い。また、生徒の日々の姿から互いを認め合う意識や自分の思いを伝え、共に学び、高め合おうとする意識をさらに高める必要がある。

以上のことから、研究主題を「互いを認め合い、共に生きようとする力を育む道徳教育の創造～考えを伝えあう授業づくりを通して～」と設定した。

3 研究の概要

(1) 主題観をもった教材分析に基づく中心発問の設定

・道徳科の授業で活用する教材を通して考えさせたい主題には、道徳的価値（価値理解・他者理解・人間理解）を指導者が意識することで、実態に応じた中心発問を設定することができる。

そのために主題と教材分析シートを作成し、それを指導案上に生かすことで、授業力の向上を図る。

【主題と教材分析シート及び記述例】

教材名	あいさつ運動		内容項目	B…礼儀
主題名	挨拶をすることの意味			
本教材における道徳的価値の理解				
価値理解 【主題の大切さ】	・挨拶は気持ちをすっきりさせる。 ・真心は相手のことを親身に思うこと。 ・心で思うだけでは伝わらない。 ・挨拶が広がることで学校が明るくなる。		予想する生徒の発言	・挨拶は相手を思うことが大事だな。 ・心で思うだけでは伝わらないから態度にして伝えるんだ。 ・挨拶で気持ちが明るくなる。
人間理解 【主題の難しさ】	・周りの言動（うわさ）が気になる。 ・自分も一緒に悪く言われたくない。 ・別に大きな声で言わなくてもいい。 ・恥ずかしい。			・恥ずかしいから言えない。 ・自分だけ大きな声で言いたくない。 ・みんなが挨拶していないから、自分もしなくていいと思う。
中心発問 ※補助発問 【教材を通して主題を深める】	◎「ぼく」が気恥ずかしさを乗り越えて、気軽に気持ちの良い挨拶ができるようになったのは、どんなことに気付いたからだろう。			・挨拶で明るくなれるんだ。 ・心で思っているだけでは変わらない。 ・道夫さんが、挨拶が大切だと思った気持ちを自分も大切にしたい。
指導の工夫	自己との関り	自分の挨拶の仕方の振り返りを意識させる。		
	多角的・多面的	挨拶をされる側の思いを考えさせる。		
	自己の生き方につなげる	これからの挨拶に仕方について考えさせる。		

価値理解：人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

人間理解：道徳的価値は大切なことであってもなかなか実現することのできない人間の弱さなどを理解すること。

他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合は感じ方、考え方は一つではない多様であることを前提に理解すること。※他者理解は授業内での気づきを重視する。

(2) 体験と道徳科を関連付け、生き方を考えさせる道徳教育の実現

- ・体験活動や各教科、総合的な学習の時間、特別活動等を道徳科と関連付けた道徳学習プログラム「吉き舎りプログラム」の改善と実践

- ① 「吉き舎りプログラム」のより効果的な活用に向けた改善と実践
- ② 日常での道徳的実践の指導と道徳科の授業の関連を図りながら、学校全体の教育活動を通した道徳性を養う指導
- ③ 地域資源を生かした授業づくりと教材開発

(3) 「特別の教科 道徳」の指導と評価の一体化

- ・道徳ノートを中心にした、認め、励ます評価の実現と、指導の改善・充実に生かす授業評価の実現
- ① ルーブリック表の活用
 - ② 自己評価や他者評価等の生徒の成長につながる工夫
 - ③ 組織的、計画的な評価の推進

4 研究仮説と検証

〈研究仮説〉

○道徳科の授業において、主題観をもって教材分析を進め中心発問を設定することで、自分の考えをもち、協働的な学びにおいて自分の考えを表現したり友達の考えを聞いたりすることで、互いを認め合い、共に生きようとする力につなげることができるであろう。

〈検証計画〉

- 道徳アセスメント調査の実施：4月と1月または2月に実施
 - ・生徒個人の内容項目ごとの現状把握を行う。
- 意識調査の実施：4月と12月に実施

5 研修計画

- (1) 小中合同で授業研究を行い、主題と教材分析シートを作成し、指導力向上を図る。
- (2) 総合単元的な道徳学習のプログラム作りや地域教材を作成し、学区で9年間が貫かれた道徳科の指導を確立する。

6 具体的な取組

月	実施内容	備考
4	事務局会 アセスメント調査	
5	小中合同研修会（研究方針の確認）(5/15 吉舎中学校)	
6	★小中合同研修会・道徳授業研究(6/21 吉舎小学校)	宮里教授指導
9	★小中合同道徳授業研究(9/11 吉舎中学校)	宮里教授指導
10	★小中合同研修会・道徳授業研究(10/4 八幡小学校)	宮里教授指導
2	事務局会 アセスメント調査 小中合同研修年度末総会（今年度のまとめ等）(2/15)	
3	次年度に向けた計画の見直し・改善	